

おきなわ



作品名:「海辺のアダン」(第9回沖縄ねりんピックかりゆし美術展 日本画の部 銅賞)
 作成者:宮城範さん(宜野湾市)

目次

- ② 特集「社会福祉法人の地域における
 公益的な取り組み～地域住民の福祉・生活
 課題に向き合う県内法人の実践レポート～」
- ④ 沖縄県社会福祉協議会
 平成29年度事業報告概要・決算報告 他
- ⑧ 沖縄県共同募金会
 平成29年度事業報告概要・決算報告 他
- ⑩ 福祉サービス運営適正化委員会
 苦情及び相談の受付状況 他
- ⑪ 社会的孤立対策モデル事業第3期に八重瀬町
 社協を指定 他
- ⑫ 第10回沖縄ねりんピックかりゆし美術展作品募集、
 第10回沖縄ねりんピック記念大会開催について
- ⑬ いきいき長寿大学校スタート、
 同窓会定期総会について、全国民生委員大会案内
- ⑭ 平成30年度 沖縄県人材研修センター研修計画一覧
- ⑮ 沖縄県介護実習・普及センターからのご案内 他
- ⑯ インフォメーション、寄付者芳名、表紙の絵 他

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として、共同募金配分金を活用しております。

社会福祉法人の地域における 公益的な取り組み

地域住民の福祉・生活課題に向き合う
県内法人の実践レポート

平成28年4月1日から、全ての社会福祉法人は、その高い公益性と非営利性を発揮していくため、社会福祉充実残額の有無にかかわらず、地域における公益的な取り組みを実施することが責務となりました。

この背景には、福祉ニーズが多様化・複雑化する中、社会福祉法人の役割がより重要になるとともに、多様な事業主体の参加があるなかでは、社会福祉法人の高い公益性と公共性、非営利性の発揮が求められていることがあるといえます。

本会では、平成29年1月に各種別協議会と県市町村社会福祉協議会連絡協議会との協議により、「沖縄県内社会福祉法人の地域における公益的な取り組み指針」(以下、「指針」という。)及び「沖縄県内社会福祉法人の地域における公益的な取り組み推進計画」(以下、

「計画」という。)を策定しました。

県内の社会福祉法人の運営する施設・事業所では現在、この指針及び計画に基づき、地域住民の福祉・生活課題に関する相談・支援を行うための体制の整備を進めているところです。

社会福祉法人は、これまでも社会福祉事業の主たる担い手として、社会福祉制度に則って事業を実施しています。また、社会福祉施設では、地域住民や地縁団体等との関係を築き、地域の社会資源として、施設機能を地域に提供したり、福祉の専門性を活かして地域住民への支援を行うなどの地域貢献活動を行ってきました。今回の法改正による公益的取組の責務化は、これまでの各施設で取り組まれてきたことの延長線上であるとともに、社会福祉施設の機能を更に地域福祉へ展開

していただくことを求めるものといえます。

本特集では、県内の福祉施設で地域住民の福祉・生活課題に向き合い、支援に取り組んでいる法人の事例

社会福祉法人群星福祉会 保育園は地域の資源



▲豊崎保育園の風景

次世代に向けた 福祉教育

社会福祉法人群星福祉会が経営する豊崎保育園(豊見城市)では、「次世代に向けた福祉教育」に取り組んでいます。

現代の家庭では、一人っ子や兄弟が少ない家庭も少なくありません。小さな子

と、社会福祉法人連絡会を通して、地域福祉に村内の社会福祉法人が協働しながら取り組んでいる事例を紹介します。

子ども遊ぶ機会が減っているなかで成人し、子どもを産み育てることで、育児が大変なこと、面倒なことと認識されてしまっているのが現状ではないか。そうであれば若い世代に保育園に来てもらい、園児たちと遊ぶ中で、「子どもはかわい

い」、「子どもと遊ぶことは楽しいこと」ということ実感してもらおう経験が必要ではないかと考え、福祉教育として高校生や専門学校生に呼びかけて、その機会を設けたと言います。

実際に、保育園の職員で作成した募集チラシを近隣住宅にポスティングし、学生を募った結果、12名が長期休暇や週末を利用して、保育園で子どもたちとの遊び、子どもとの関わり方を

学んでいます。保育園としては、次世代の子育て世代を育成する福祉教育として取り組んでいることですが、園での経験をもとに保育士養成校への進学を決めた高校生もおり、副次的な効果として保育士の確保にもつながってきています。

セーフティネット としての保育園

また、豊崎保育園では、保育園に通う子どもの保護者が抱える生活上の困りごとにも寄り添って支援を行っています。

例えば、保護者が離職又は失業した場合、子どもは保育園に通い続けられなくなり、保育園を退園せざるを得ない状況の話をきつかけに、保護者の就職活動の状況を伺いながら、「就職先が思うように見つからない場合は、園で働いてみませんか。」と保護者の課題に一步、踏み込んだ相談を行います。

人は、本当に困っている時こそ、自分から「困っています、助けてください。」と

言い出すことはないものだ」と名嘉元美佐子園長は言います。仕事が見つからず、不安になっていく保護者に対し、「希望する仕事が見つかるまでの間でも構わないから保育園で働けますよ」と伝えることで安心して就職活動が出来るのであれば、園での就職内定を出した後「希望する仕事が見つかったので、辞退します」という方がいてもいいと思っ

て対応しているそうです。保護者の就労支援を行うことで親子の生活基盤を整え、保護者が子育てにゆとりを持って関わられるようになることは、何より子どもの成長を支援することにつながる」と、名嘉元園長は支援を振り返ります。

豊崎保育園では、個人面談や送迎時の保護者との会話で子育ての相談にのみならず、保護者自身の悩みをキャッチしています。そこで把握した保護者(世帯)の課題に対し、保育園として何が出来るか検討し、行政等の関係機関へ繋ぐことも含めて、受け止めています。「保育園は、地域の社会

資源です。保育園に入園している、していないに関わらず、地域の子どもや子育て家庭を受け入れて、必要に応じた支援を行うことは、保育園の役割なのです」と、生活上の課題を抱えた保護

中城村社会福祉法人連絡会 〜チームポパイが地域を支える〜

次に紹介するのは、中城村社会福祉法人連絡会の取り組みです。

中城村は、人口約2万1千人、世帯数約8千400の住民が暮らす本島中部に位置する村です。社会福祉法の改正を受けて、平成28年12月に村社協の呼びかけで村内にある社会福祉施設が集い、情報交換会が行われました。

平成28年度の情報交換会では、各福祉施設長等の顔合わせから始まり、法改正を受けて、これから共に地域住民の福祉・生活課題に取り組んでいくことの確認作業から始めました。

平成29年度からは、「中城村社会福祉法人連絡会」

者や地域の気になる子どもに対して積極的に関わっていく豊崎保育園の取り組みは、保育園だからこそ出来る、社会福祉法人の地域における公益的な取り組みといえます。

として名称を改め、連絡会の要綱を定めた上で村社協が事務局を担い、2ヶ月に1回の頻度で開催されることとなりました。

事務局を担う中城村社協の機関正明事務局長は「今回の法改正で施設と社協との連携を図るうえで、関係性を築くことができ、良い



▲お揃いのユニフォーム姿で集まるTeamポパイのメンバー

きっかけだった」と言います。初年度となる連絡会では、第1回目の開催となる中城村福祉まつりに向けた話し合いや、各法人が地域に提供できる資源リスト(人材と資材)を作成しながらお互いの関係を作っていました。

また、連絡会が立ち上がったことにより、保育園から「ご飯を十分に食べていないのではないかと、気になる世帯がある」という相談があり、保育園を通じて社協で行っているフードバンク活用することを案内し、食糧を提供することが出来た事例も生まれました。

チームポパイの誕生

さらに平成30年度は、法人間のホウレンソウ(報告・連絡・相談)をもとに地域を支える「Team(チーム)ポパイ」として法人連絡会の愛称を定め、①人材(職員)の派遣 ②資機材の貸出 ③フードバンク活動の取り組みを柱に地域公益事業を実施しています。

特に職員派遣については、村内の14自治会で実施され

ているふれあい事業(ミニデイサービス)において、レク指導員や看護師、マイクロスバス運転手の派遣、保育園児との交流など各法人の協力体制を整えました。

公益的な取り組みを共に行うことで、村社協にとっては、地域福祉活動に関わる専門的な人材が充実し、福祉施設にとっては、地域のニーズを把握する機会となるなど、社協と福祉施設の双方にとってメリットとなり、村の地域福祉の充実が図られています。

今後もチームポパイの活動に注目し、期待していきたいと思えます。

中城村社会福祉法人連絡会

H30年5月現在

- ・(社福)いなほ会
- ・(社福)南島会
- ・(社福)陽だまり福祉会
- ・(社福)明秀福祉会
- ・(社福)育和福祉会
- ・(社福)中城村社会福祉協議会(事務局)
- ・(社福)善隣福祉会
- ・(社福)ハイジ福祉会
- ・(社福)マシユー福祉会
- ・(社福)へいあん福祉会

平成
29
年度

沖縄県社会福祉協議会 事業報告概要

沖縄県社協第4次地域福祉活動総合計画の着実な推進を目指して各種事業に取り組みました。本号ではその概要を報告します。

第1 地域福祉の推進及び福祉文化の形成

▼各種研修会等において、小地域福祉活動推進の調査研究及び普及促進を図るとともに、コミュニティソーシャルワークを担う人材養成及び社協機能強化に向けた支援を行った。

▼「地域福祉（活動）計画推進連絡会」の開催をはじめ、市町村社協等の計画策定委員会への職員派遣、個別相談等を通じ、地域福祉（活動）計画の策定・見直しに向けた支援を行った。

▼県内の福祉関係18団体の



▲第1回THANKS(サンクス)運動推進会議の様子(11月)

参加のもと11月に「THANKS(サンクス)運動推進会議」を立ち上げ、地域のつながり・支え合いの体制の構築を目的とした県民運動をスタートさせた。また、県民福祉講演会の開催や各種会議において事業説明を行うなど県民への周知・広報を図った。

▼県内4つの市町村社協を指定して「社会的孤立対策モデル事業」を実施し、身近な地域での支え合い活動を推進したほか、各種会議や研修会を通じてモデル事業の成果の普及を図った。

▼「沖縄県福祉教育推進研究会」において、「福祉教育プログラム作成用事前シート」の開発と「福祉教育推進研究活動レポート」の作成等に取り組み、社協と学校の連携による福祉教育の推進を図った。

第2 地域自立生活を支える福祉基盤づくり

▼「総合相談・生活支援機能強化研修会」や「生活困窮者自立支援制度・自立相談支援事業相談員連絡会」の開催等を通じ、社協と関係機関との連携強化を図り、生活困窮者等の自立に向けた包括的な支援体制づくりを進めた。

▼生活福祉資金、要保護世帯向け不動産担保型生活資

▼民生委員制度創設100周年記念全国民生委員児童委員大会に県内の単位民児協会長等を派遣するなど、県民児協と協働して100周年記念事業を推進した。また、民生委員・児童委員の歴史・活動を紹介するパネル展を実施するなど、民生委員・児童委員活動の推進のための各種事業を展開した。

金及び臨時特例つなぎ資金の貸付を行い、低所得世帯等の経済的自立促進を図った。また、滞納世帯への訪問指導等、個々の状況に応じた償還・相談の対応を行うとともに顧問弁護士との連携による債権管理の強化に努めた。

▼認知症等により判断力が不十分な人の地域生活を支

▼九州北部豪雨災害に際し、協定に基づき県社協及び市町村社協職員を派遣し、被災地の災害ボランティアセンターの運営支援を行った。【福岡県東峰村、朝倉市へ計8陣、延べ23名派遣】

▼県内での台風接近に際し、被災した社会福祉施設等に対し、社会福祉振興基金緊急小口助成を行った。(3件)



▲生活支援員研修会(9月)

援する日常生活自立支援事業において利用者の支援を行った。また、基幹的社協に専門員を計2人増員し、利用待機者の解消を図った。

▼市町村段階における高齢者や障害者等の権利擁護体制を強化するため、平成31年度から現在の基幹型方式から全市町村型へ事業実施形態を見直す方針を取りまとめ、課題整理を図るなどの準備を進めた。

▼福祉サービスに関する利用者等からの苦情について、

第3 福祉サービスの質の向上

▼各種別協議会において職員研修を58回実施（延べ5,721人が受講）したほか、県の委託を受けて19コースの研修を実施（延べ2,117人が受講）し、社会福祉従事者及び民生委員・児童委員の資質向上を図った。

▼身体障害児者施設協議会を中心として「九州身体障害児者施設研究大会」を開催し、現場で直面する課題や利用者へのニーズ対応、施設経営に関する課題などに対する具体的方策についての研究討議を行った。

▼県内社会福祉法人等を対象に会計に関する各種講座や研修会等を実施し、会計職員の知識・技術の向上



▲福祉の職場説明・面接会（12月）



▲社会福祉法人採用戦略セミナー（9月）

社会福祉法人の経営基盤や安定経営の強化を図った。

▼各種別協議会、県市町村社協連絡協議会、県社協で構成する「社会福祉法人の公益的な取り組み連携推進会議」を立ち上げ、同取り組みに関するアンケート調査や「相談対応職員研修会」を開催し、取り組みの強化を図った。

▼福祉人材無料職業紹介事業をはじめ、「福祉の職場見学ツアー」や「福祉の職場説明・面接会」の実施により福祉人材の養成・確保を図った。

▼介護福祉士修学資金等貸付事業及び保育士修学資金等貸付事業の実施により資

格取得支援並びに人材の確保に努めた。

▼県内の施設・事業所1ヶ所をモデル指定し、専門アドバイザーの派遣等による人材育成の仕組みづくりの支援を行うとともに、「沖縄県の福祉・介護分野における人材育成ガイドライン活用実践セミナー」を開催し、福祉施設・事業所における人材育成の取り組みを推進した。

▼一般県民を対象とした介護技術・住宅改修等に関する講座、介護従事者向けの

第4 明るい長寿社会づくり

▼「沖縄ねんりんピック」の開催や「全国健康福祉祭あきた大会」への選手団の派遣と美術作品の作品展、高齢者のスポーツ文化交流を推進した。また、「かりゆし美術展」を開催し、シニアの芸術活動の振興を図った。

▼「沖縄県かりゆし長寿大学校」の運営を行い、地域文化学科・健康福祉学科・

連続講座を実施したほか、「福祉機器展2017」や「介護の日講演会」の開催等を通じ、広く介護知識・技術並びに福祉用具の普及啓発を図った。



運営適正化委員会での協議をもとに相談対応・助言等を行った。また、巡回訪問やセミナー等の開催を通じ、各事業者における苦情解決体制の整備を図った。

▼県受託事業として、高齢または障害のある矯正施設退所者への支援を行う地域生活定着支援事業を実施し、県内外の刑務所等の新規退所者を適切な福祉施設や生活保護等の福祉サービスにつなげるとともに、退所後の相談対応等のフォローアップ業務を行った。

生活環境学科の3学科において体系的な学習の場を提



▲ねんりんピック結団式（9月）

供し、生きがいと健康の保持・増進及び地域活動の担い手として養成に努めた。

▼高齢者無料職業紹介事業を通して、求職登録者と求人事業所のマッチングを行うとともに高齢者のニーズを踏まえた求人企業の開拓や面接会の実施により、高齢者の就労支援を図った。

第5 企画広報・助成・提言活動の推進



▲県社会福祉大会(11月)

▼総合企画委員会において第4次総合計画の1年次評価を行い、今年度の各種事業の効果的な推進を図ったほか、「社会的孤立対策モデル事業」の成果について協議を行い、県民運動として進めていくTHANKS(サンクス)運動の展開に努めた。

▼県社会福祉施策・予算対策協議会において、各福祉施設・団体の要請内容を取りまとめ、要請を行った。(県へ16項目、市町村及び市町村議会へ19項目、県広域連合へ4項目)

▼「民生委員制度創設100周年記念・第60回沖縄県社会福祉大会」を開催し、関係者や県民に対し社会福祉の推進に関して啓発を図るとともに、本会広報紙「福祉情報おきなわ」の発行やホームページによる情報発信など、広報啓発活動に努めた。

▼社会福祉振興基金の運用果実による助成を行い、民間社会福祉関係団体やNPO法人等の活動を支援した。

第6 組織体制・財政基盤の強化

▼会員加入促進やチャリティ公演を行うなど、自主財源の確保に努めた。

▼顧問社会保険労務士と連携し、改正育児・介護休業法への対応や労務管理体制について整備を進めた。
▼顧問会計士による定期的な会計チェックを実施して、適正な会計処理を行った。

▼県総合福祉センターの適正な貸館業務、建物・設備の修繕整備を

進め、施設利用者
の利便性、
快適性の
向上を図
った。



▲芸能チャリティ公演(10月)

平成30年度
社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます
ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の
事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

① 基本補償(賠償・見舞)

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の滅失を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	新設 徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時15~7万円 通院時1~35万円

保険期間1年

▶年額保険料(掛金)	
定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

付 見舞費用(B型) 補償(A型) 保険料 + 【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円



スケールメリットを活かした
充実した補償と
割安な保険料
です。

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 施設職員の補償
- プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆30年度新設 クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4)

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、業務傷害保険、労働災害補償保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
 (引受幹事) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
 (保険会社) TEL: 03(3349)5137
 受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
 TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763

平成29年度 沖縄県社会福祉協議会決算報告

平成 29 年度一般会計の決算は、収入総額 1,460,070 千円に対して、支出総額 1,395,249 千円となり、当期末支払資金残高は 64,821 千円となりました。収支差額の内訳は、社会福祉事業が 20,003 千円、公益事業が 42,387 千円、収益事業が 2,430 千円となっています。

福祉資金貸付会計等の収支差額については 3,577,608 千円となり、ほぼ全てが低所得者等への貸付金の原資になります。

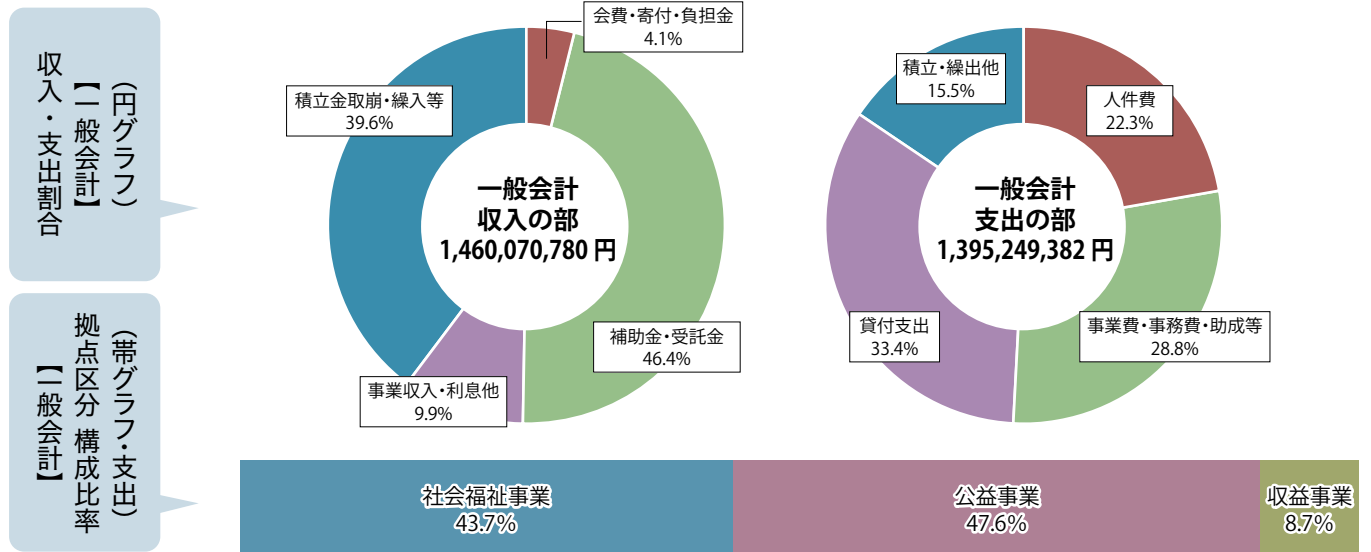
I 一般会計 収支の状況

一般会計は社会福祉事業、公益事業、収益事業の3つの事業に区分されています。社会福祉事業については、主に地域福祉の推進、福祉施設等の人材育成および福祉団体活動の支援、地域自立生活の支援、長寿社会づくりの推進などを行っています。公益事業については、介護福祉士及び保育士の資格取得並びに児童養護施設等を退所した方への資金貸付を行っています。収益事業については、社会福祉事業を補完するための事業を行っており、賃貸事業や沖縄県総合福祉センターの指定管理業務などが主な事業となっています。

収入については、補助金・受託金及び取崩収入が大部分を占めており、支出については、貸付支出及び事業費等並びに人件費が大部分を占めています。支出における各事業区分の構成比については、社会福祉事業、公益事業が大きな割合を占めています。

資金収支計算書				事業活動計算書				貸借対照表			
支出		収入		支出		収入		借方		貸方	
人件費	311,140,599	会費・寄付金収入	31,337,446	人件費	331,965,127	会費寄附金収益	31,337,446	流動資産	113,788,538	流動負債	63,010,028
事業費(※)	197,924,485	補助金等収入	417,218,080	事業費	247,424,185	補助金等収益	417,218,080	現金預金	26,237,839	未払金等	44,122,983
事務費等	109,878,312	受託金収入	259,916,910	事務費・負担金等	125,041,348	受託金収益	259,916,910	未収金等	87,249,323	その他	18,887,045
貸付支出(※)	466,336,544	貸付事業収入	6,797,783	助成金費用	81,655,961	事業収益	107,955,834	前払費用	301,376	固定負債	217,090,242
助成金	81,655,961	事業収入・利息	137,937,360	減費・引当・免除等	20,132,120	負担金収益	28,925,574	固定資産	4,980,650,498	純資産	4,814,338,766
負担金・分担金	11,795,600	負担金収入	28,925,574	国庫取崩額等	△84,462,823	利息・売却益等	27,790,738	基本財産	1,000,000	基本金	1,000,000
固定資産取得等	2,581,632	固定資産売却等	20,000	国庫積立額等	230,222,600	その他の収益	3,036,540	有形資産	103,351,617	基金	1,505,139,413
積立資産支出	203,556,309	取崩収入等	504,637,801	積立金積立	11,076,505	固定資産売却	20,000	無形資産	2,533,699	国庫積立	2,674,633,907
その他の支出	10,379,940	前期末支払資金	73,279,826	法人税等	1,153,000	積立取崩額等	54,392,718	貸付金	1,288,905,837	積立金	575,007,658
当期資金残高	64,821,398	計	1,460,070,780	次期繰越差額	58,557,788	前期繰越差額	92,171,971	積立資産	3,584,859,345	次期繰越差額	58,557,788
計	1,460,070,780	計	1,460,070,780	計	1,022,765,811	計	1,022,765,811	計	5,094,439,036	計	5,094,439,036

※資金収支計算書にける貸付支出については事業費にて計上されているが、かなり高額となるため決算状況が把握しやすいよう事業費から除き貸付支出として、記載しています。



II 貸付会計等

貸付会計等(生活福祉資金・要保護世帯向け長期生活支援資金・生活福祉資金貸付事務費・臨時特例つなぎ資金)収支の状況

低所得世帯等の自立支援のため貸付事業を行っているため、収入の大部分が貸付金の原資となっています。平成29年度における貸付支出は193,803千円となっており、償還金収入は276,790千円となりました。また、国の制度改正により平成29年度から7年間にわたり総額93,396千円の貸付原資の返還が求められております。なお、平成29年度については13,342千円の返還を行いました。

資金収支計算書				事業活動収支計算書				貸借対照表			
支出		収入		支出		収入		借方		貸方	
人件費	49,406,275	補助金収入	17,571,000	人件費	51,552,907	補助金収入	17,571,000	流動資産	3,583,776,791	流動負債	25,954,986
事業費	52,624,193	貸付事業収入	292,801,993	事業費	52,624,193	貸付事業収益	16,011,523	現金預金	3,559,570,606	未払金等	23,698,103
事務費	10,277,477	受取利息	22,244,506	事務費	10,277,477	受取利息	22,244,506	未収金等	27,154,778	その他	2,256,883
貸付支出	193,803,886	その他の収入	192,761	減費・引当	16,352,870	その他の収益	192,761	その他	△2,948,593	固定負債	103,094,864
流動資産評価損	17,142	取崩・繰入	94,858,509	国庫補助取崩	△1,962,704	繰入・その他	91,110,457	固定資産	3,479,140,145	純資産	6,933,867,086
積立・繰出等	94,067,625	前期末支払資金	3,563,478,367	国庫返還	93,396,000	国庫補助取崩	151,485,576	有形資産	5,248,172	国庫積立	6,835,406,823
国庫補助返還	13,342,000	計	3,991,147,136	繰出・その他	90,989,483	その他の取崩額	3,869,026	投資証券	1,043,640,000	積立金	510,250,643
当期資金残高	3,577,608,538	計	3,991,147,136	積立金積立	580,162	前期繰越差額	△400,464,840	貸付金	2,035,859,940	次期繰越差額	△411,790,380
計	3,991,147,136	計	3,991,147,136	次期繰越差額	△411,790,379	計	-97,979,991	積立資産	394,392,033	計	7,062,916,936
計	3,991,147,136	計	3,991,147,136	計	-97,979,991	計	-97,979,991	計	7,062,916,936	計	7,062,916,936



沖縄県共同募金会 平成29年度事業実績概要報告

1 赤い羽根共同募金運動の実施

平成29年10月～平成30年3月に実施した赤い羽根共同募金運動には、約1億7千982万の浄財が寄せられました(表1)。

市町村別では、目標達成した市町村が1市21町村と前年度(前年度18市町村)を上回り、また、前年度実

表1 平成29年度赤い羽根共同募金(一般)実績内訳 (単位:円)

募金内訳	29年度目標額	29年度実績額	達成率	28年度実績額	対前年度比較増減
市町村一般募金	-	166,327,018	-	171,361,531	▲5,034,513
県共募取扱	-	13,499,826	-	12,888,502	611,324
合計	211,943,000	179,826,844	84.8%	184,250,033	▲4,423,189

績額を上回った市町村は、22市町村(前年度25市町村)という結果になりました。

集められた寄付金から、広域施設団体の事業へ2千270万5千円、41市町村の地域福祉事業として1億764万2千円余の配分が内定し、5千74万余は共同募金運動経費、災害等準備金などに充てられました。(表2)

表2 平成29年度一般募金配分内訳表(平成30年度事業)

区分	計画額(目標)	配分内定額(平成30年度事業)
≪A配分≫(県域)	80,000,000	73,450,381
広域事業配分	23,063,000	22,705,000
募金運動経費	20,436,000	16,245,381
市町村事務費	12,000,000	12,000,000
次年度運動積立金	16,000,000	16,000,000
災害等準備金	8,501,000	6,500,000
≪B配分≫(市町村)		
市町村事業配分	131,943,000	107,642,728
計	211,943,000	181,093,109

2 テーマ型募金の実施

1月4日から3月31日の期間に県域で子どもの学びと育ちを支えることをテーマに琉球新報社と協働で「りゅうちゃん子どもの希望募金」寄付を募り、608万円余が寄せられました。

集められた募金は、子どもの支援活動に取組んでいる団体や児童養護施設等25団体へ助成が内定しています。

また糸満市では、子どもの支援を行う拠点活動費造成を目的に寄付を募り、56万円余が寄せられました。(表3)

表3 平成29年度テーマ型募金実績一覧

募金期間:平成30年1月～3月

募金種別	目標額	募金実績額	H28年度募金額	前年比差額
りゅうちゃん子どもの希望募金	5,000,000	6,089,705	4,428,454	1,661,251
糸満市テーマ型募金	500,000	569,473	-	-
合計	5,500,000	6,659,178	4,428,454	1,661,251

3 歳末たすけあい運動の実施

12月1日から31日まで、「つながりささえあうみんなの地域づくり」をスローガンに歳末たすけあい運動を市町村社会福祉協議会と協働で実施しました。

市町村での募金額は、前年度とほぼ同額の5千626万円余となり、目標達成を達成した市町村は20市町村(前年度21市町村)となりました。

また、県域のNHK歳末たすけあい運動での募金額は572万円余となり、昨年度実績額より約50万円減額となりました。(表4)

集められた浄財は、市町村社会福祉協議会を通して地域の支援を必要としている方や、離島町村の要援護世帯へ義援金などとして配分したほか、NPO法人や障害者サービス事業所などへ備品整備や歳末の行事費として助成を行いました。



表4 平成29年度歳末たすけあい募金実績額

募金期間:平成29年12月

募金種別	目標額	募金実績額	H28年度募金額	前年比差額
市町村歳末たすけあい募金	57,408,000	56,268,396	56,265,211	3,185
NHK歳末たすけあい募金	9,000,000	5,720,814	6,241,463	▲520,649
合計	66,408,000	61,989,210	4,428,454	1,661,251

4 災害たすけあい運動の実施

中央共同募金会や被災地の各県共同募金会と連携して行う「災害たすけあい運動」は、平成28年4月の「熊本・大分地震」、平成29年7月の「福岡・大分大雨災害」などについて市町村共同募金会を通じ義援金募集しました。集まった義援金は各被災県共同募金会へ送

表5 平成29年度災害義援金一覧(被災者見舞金)

名称	送付先	県共募集約	市町村取扱	計
平成28年熊本地震義援金	熊本県共同募金会	373,095	-	373,095
新潟県糸魚川市における大規模火災義援金	新潟県共同募金会	3,000	-	3,000
平成29年7月5日からの 大雨災害義援金	福岡県共同募金会	5,202,323	-	5,202,323
	大分県共同募金会	595,335	-	595,335
秋田県大雨災害義援金	秋田県共同募金会	-	265,779	265,779
台風21号三重県災害義援金	三重県共同募金会	-	35,771	35,771
和歌山県平成29年台風21号災害義援金	和歌山県共同募金会	-	25,950	25,950
合計		6,173,753	327,500	6,501,253

金しました(表5)。その全額が被災者へと配分されることになっています。



表6 平成29年度特定・指定寄附金一覧

(単位:円)

No.	寄附者名	受入年月日寄附額	払出年月日配分額	審査手数料	受配団体名	使途内容
1	有限会社 ヘルスサポート	H29.9.8 81,414,141	H29.10.5 80,000,000	1,414,141	社会福祉法人 陽風会	小規模特別養護老人 ホーム建築費の一部
2	医療法人 カムラ会	H29.9.25 215,368,844	H30.3.12 91,368,000 H30.5.15 121,824,000	2,176,844	社会福祉法人 ムサアザ福祉会	障害者デイサービス センター等施設建築 費の一部
3	株式会社 ジーセットメディカル	H30.3.27 17,108,066	H30.3.29 16,665,905	442,161	社会福祉法人 風信子館	通所介護事業所の施設 改修工事等費用の一部
合計(3件)				313,891,051円		

税制優遇を受けることができる本会を通じた社会福祉法人等への寄付は、3法人から指定寄付の委託を受け、中央共同募金会の審査を経て寄付先の法人へ支払を行いました。(表6)

5 特定・指定寄附金の取り扱い



中央競馬馬主社会福祉財団の委託を受けて、助成事業の申請の募集審査、推薦事務を行い、社会福祉法人等6団体の備品・車両整備に546万円を助成しました。また、アサヒ飲料から児童養護施設へ飲料水寄贈5件の要望を取りまとめ推薦を行いました。

6 公益資金補助事業の取り扱い

平成29年度 沖縄県共同募金会決算報告書

(単位:円)

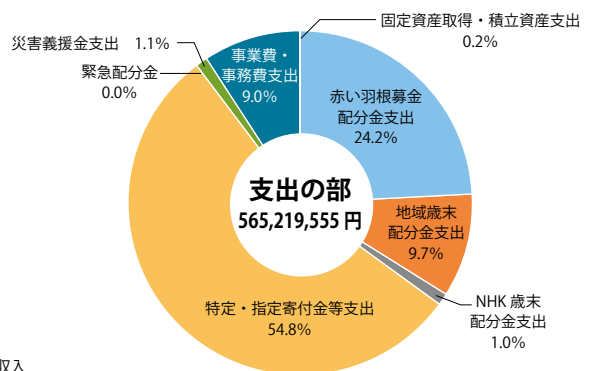
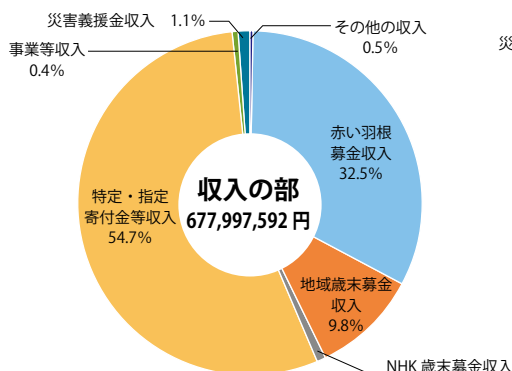
(単位:円)

(単位:円)

資金収支計算書			
支出	収入		
赤い羽根募金配分金支出	137,007,728	赤い羽根募金収入	186,486,219
地域歳末配分金支出	54,831,537	地域歳末募金収入	56,268,456
NHK歳末配分金支出	5,584,000	NHK歳末募金収入	5,720,814
特定・指定寄付金等支出	309,857,905	特定・指定寄付金等収入	313,911,051
緊急配分金	80,000	災害義援金収入	6,173,737
災害義援金支出	6,173,753	事業等収入	2,257,464
事業費・事務費支出	50,656,232	その他の収入	2,603,585
固定資産取得・積立資産支出	1,028,400		0
当期末支払資金残高	112,778,037	前期末支払資金残高	104,576,266
合計	565,219,555	合計	677,997,592

事業活動収支計算書			
費用(支出)		収益(収入)	
赤い羽根募金配分金費用	137,007,728	赤い羽根募金収益	186,486,219
地域歳末配分金費用	54,831,537	地域歳末募金収益	56,268,456
NHK歳末配分金費用	5,584,000	NHK歳末募金収益	5,720,814
特定・指定寄付金費用	309,857,905	特定・指定寄付金等収益	313,911,051
災害義援金費用	6,173,753	災害義援金収益	6,173,737
緊急配分金	80,000	事業等収益等	2,257,464
事業費・事務費	51,759,167	その他の収益	2,603,585
減価償却費	486,000	その他積立金取崩額	7,900,000
災害等準備金繰入	6,512,677		
次期繰越活動増減差額	77,038,415	前期繰越活動増減差額	68,009,856
合計	572,292,767	合計	649,331,182

貸借対照表			
資産の部		負債の部	
流動資産	377,101,466	流動負債	302,338,325
固定資産		固定負債	23,158,986
基本財産	3,000,000	純資産の部	
その他の固定資産	97,911,505	基本金	300,000
		その他の積立金	73,524,013
		次期繰越活動収支差額	78,691,647
合計	478,012,971	合計	478,012,971



※実績報告及び決算報告などは本会のホームページでも公開しています。
http://www.okishakyoo.or.jp/
/kyoubo/

福祉サービス運営適正化委員会

苦情及び相談の受付状況

福祉サービス運営適正化委員会(以下、委員会)では、福祉サービスに関する苦情や相談を受け付け対応しています。

委員会における平成29年度の苦情解決結果別の苦情および相談の受付状況は、苦情受付件数88件、苦情以外の相談件数156件で、前年度と比較して苦情が6件増、苦情以外の相談が81件の増となりました。苦情以外の相談が増加した要因としては、保育園や認定こども園等の新設に伴い、苦情受付窓口の周知方法や第三者委員の設置等に関する問い合わせが急増したことが考えられます。

また、苦情受付件数でも多い分野は障害分野で、特に就労支援事業所への苦情は近年増加しています。苦情内容では、サービスの内容(職員の接遇や、サービスの質や量)に関するところが、全体の約59%を占めており、高い数値となっています。

います。

委員会で取り扱った苦情解決における結果の内訳は、助言相談にて終了したものが53件で最も多く、専門機関や行政機関への紹介や伝達が24件ありました。また、県知事通知1件、関係機関等に対する情報提供書の送付は2件ありました。その他の7件は、委員会が福祉サービス事業所に対して改善の申し入れを実施した等が含まれています。

委員会では、福祉サービスの利用者等と福祉サービス事業者間の苦情を話し合いによって解決できるように努めています。また、相談内容によっては、関係機関等へつなぐ場合もあり、その際は関係機関と緊密に連携し、対応しています。

沖縄県福祉サービス運営適正化委員会

連絡先 098-882-15740
月～金 8時30分～17時15分

苦情内容別・サービス分野別苦情受付状況

(単位：件)

	高齢者	障害	児童	医療	社協	行政	その他	合計
① サービス内容(職員の接遇)	4	33	2	1	4	3	0	47
② サービス内容(サービスの質や量)	1	3	0	0	0	1	0	5
③ 利用料	0	1	0	0	0	0	0	1
④ 説明・情報提供	2	2	0	0	0	1	1	6
⑤ 被害・損害	1	4	0	0	0	0	0	5
⑥ 権利侵害	3	3	2	2	0	0	0	10
⑦ サービスの契約や解約	3	4	0	0	0	0	1	8
⑧ その他(指導監査・基準違反等)	0	1	2	0	1	2	0	6
合計	14	51	6	3	5	7	2	88

地域共生社会の実現に向けた

社協の取組を確認

沖縄県社協及び沖縄県市町村社会福祉協議会連絡協議会(県社連)では、5月17日、名護市民会館において「県社連総会並びに市町村社協会長・事務局長等研究協議会」を県内の社協関係者78名の参加のもと開催しました。

県社連総会では、監事の選任、平成29年度事業報告・決算並びに平成30年度事業計画・予算(案)が審議され、いずれも全会一致で承認されました。

続く研究協議会では、初めに沖縄県社協の高良正樹事務局長より「社協をめぐる動向と30年度県社協重点事業」と題して基調報告が行われ、「地域共生社会」の実現に向けた国の施策の動向を踏まえ、「THANKS(サンクス)運動」の推進や「社会福祉法人・施設との連携による地域における公益的な取組」の推進など、市町村社協に関連のある事業について確認がさ

れました。後半には、ケアセンターきらめき代表の渡慶次憲氏より「地域共生社会の実現を目指して社協に期待すること」と題して講演が行われました。

講演では、きらめきの実践するチャンプル福祉の取り組み紹介から、生活課題の本質を捉える視点、多機関連携し地域で支えていく仕組みづくりの大切さが指摘され、地域福祉の推進役としての社協への期待についてお話をいただき、改めて社協の果たすべき使命について確認する機会となりました。



▲講師を務めたケアセンターきらめき代表 渡慶次 憲氏

社会的孤立対策モデル事業

第3期に八重瀬町を指定

県社協では、平成27年度から、社会的孤立の解消と防止を目的に「社会的孤立対策モデル事業」を実施しています。

今年度、新たにモデル指定を行うため、平成30年3月に助成審査委員会が行われました。そして応募のあった5市町村社協の中から、第3期モデル指定社協として八重瀬町社会福祉協議会（以下八重瀬町社協）が決定されました。

平成30年度は、平成28年度に指定を受けた西原町社会福祉協議会、南風原町社会福祉協議会に加え3町社協で事業が行われることになりました。

本事業の主な内容は、コミュニティソーシャルワーカーの配置や、地域の課題を話し合う支え合い委員会の設置等全7項目あり、八重瀬町社協では、平成25年度から小学校区ごとにコミュニティソーシャルワーカー職員が配置されていま

す。また、各字・自治会全33カ所で住民の方々が主体となった「小地域福祉推進会」が設置されています。

その他、郵便局やガス会社等の様々な企業・事業所との見守り協定を締結し、安否確認ができる協力体制づくりを事業計画にあげており、八重瀬町社協の石川健事務局長と職員からは「受託事業から地域の福祉課題に応える運動体的総合支援事業型社協にしたい」「社会的孤立の解消・防止を図ることで地域福祉力の向上を目指して取り組んでいきたい」との抱負がありました。



▲八重瀬町社協石川健事務局長とコミュニティソーシャルワーカー職員

THANKS(サンクス)運動 ロゴマーク募集!!

～THANKS(サンクス)運動ロゴマークデザインコンテスト開催～

社会的孤立の解消・防止に向けて運動では

- 地域における住民相互の支え合い活動を推進します！
- 関係機関が連携し、地域における福祉・生活課題の解決を図る仕組みづくりを行います！

社会的孤立とは？

様々な課題を抱えている方が、周りに助けを求める相手がいない、またはその人の周りにその人を気に掛ける人が誰もいない状態

募集期間

平成30年6月1日～7月31日まで

応募資格

制限なし（沖縄県内在住の個人、団体、学生、社会人、年齢等は問いません）

表彰

最優秀賞1点 表彰状・賞金50,000円

応募方法

応募作品は1人3点までとさせていただきます。募集要領・応募申込書はホームページからダウンロードしてください。また、運動に関する情報（運動実施要綱・パンフレット等）も御参照ください。

選考

選考はTHANKS（サンクス）運動幹事会において厳正な審査の上、決定します。

入賞
作品発表

8月下旬頃にホームページ等で公表予定です。
表彰については、10月25日開催する「第61回沖縄県社会福祉大会」で行う予定です。

応募先および
応募に関する
お問い合わせ先

THANKS(サンクス)運動事務局(社会福祉法人沖縄県社会福祉協議会地域福祉部)
〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 電話：098-887-2000
E-Mail：i-tiiki@okishakyo.or.jp

THANKS運動

検索

第10回沖縄ねんりんピックかりゆし美術展作品募集!!

(第32回全国健康福祉祭和歌山大会美術展出品作品選考会)

◆募集期間

平成30年7月2日(月)～10月31日(水)

◆出品資格

県内在住で60歳以上のアマチュアの方

◆募集作品(6部門)

日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真

◆美術展会期

平成30年12月1日(土)～12月9日(日)

◆展示会場

沖縄県立美術館 企画ギャラリー1・2

◆ホームページアドレス

<http://www.okishakyo.or.jp/ikiiki/>

募集要項、申込書については、7月より各市町村窓口、各市町村社協、県立博物館・美術館、県立図書館等で受け取れます。上記ホームページからもダウンロードできます。上位入賞作品については、「第32回全国健康福祉祭和歌山大会」に出品致します。



第9回かりゆし美術展
沖縄県知事賞
「鎮守のがじまる」

【かりゆし美術展とは?】

高齢者の創作による美術作品を展示し、芸術文化活動における参加機会を促すとともに、趣味活動や創作意欲を高め、生きがいを持ち、明るく活力ある長寿社会づくりに寄与することを目的に開催しております。

県内在住の60歳以上(アマチュア)の方ならどなたでも出品可能です。

多くの皆様の御応募をお待ちしております!

◆テーマ 特に定めはありません

◆出品料 1,500円

第10回 沖縄ねんりんピック記念大会 を開催します!

～10周年特別企画 ねんりん健康ブース・レクリエーション交流行事参加者募集～

沖縄ねんりんピックは、高齢者に適したスポーツ、文化活動等を通じて健康の保持・増進と参加者相互の交流を図り、生きがいと健康づくりを進めることにより、明るく活力ある長寿社会づくりを促進することを目的とする県内高齢者のスポーツ・文化の祭典です。(主催：沖縄県、沖縄県社会福祉協議会)

★スポーツ・文化交流大会

(19種目)

【6月29日(金)～9月29日(土)】

ラージボール卓球、テニス 弓道、剣道、ソフトテニス、ソフトボール ベタタンク、マラソン、ゲートボール、太極拳、ソフトバレーボール、グラウンド・ゴルフ、ダンススポーツ、ボウリング、サッカー、選歴軟式野球、水泳、将棋、囲碁

※開催日は各競技により異なります。



★10周年特別企画

～ねんりん健康ブース～

日時 9月22日(土) 11:00～15:30

場所 県立武道館アリーナ棟

- 内容
- ◆体力測定 (沖縄県レクリエーション協会)
 - ◆健康測定・健康相談 (沖縄県看護協会)
 - ◆足型測定 (スポーツオーソリティ)
 - ◆マッサージ・テーピング (沖縄統合医療学院) 他
- ※高齢者の健康づくりに関心のある方なら、どなたでも参加できます。

★レクリエーション交流行事

日時 9月23日(日)

場所 県立武道館アリーナ棟

内容 ふれあいウォーキング、民謡体操、民謡体験学習、ニュースポーツ、レクダンス、ラジオ体操 等

参加対象 スポーツレクリエーション及び健康づくりに関心のある方ならどなたでも参加できます!

参加費 無料

※沖縄ねんりんピックの詳細(各競技開催日程、レクリエーション交流行事の申込方法等)は、県社協ホームページを御覧ください。

【ホームページアドレス】

<http://www.okishakyo.or.jp/ikiiki/>



第87回全国民生委員児童委員大会 (沖縄大会)が9月に開催されます！

期日：9月27日(木)・28日(金) / 会場：沖縄コンベンションセンター 他
県内外から約3,500名の民生委員・児童委員が参加します

沖縄県かりゆし 長寿大学校

28期スタート！

【学校生活の様子】

4月17日より、地域文化学科、健康福祉学科、生活環境学科の火曜・木曜コースの大学校生活が始まりました。

地域文化学科64名

地域文化学科では、郷土の歴史や伝承遊び・玩具作り、民話やわらべうたなどの講義を通し、沖縄の文化や歴史、地域の魅力を学びます。また、地域づくりの講義では、古風景が残る小谷集落を散策し、石畳みの道や竹細工など、昔懐かしい文化に触れることができます。

秋頃には、『保育現場体験』など、様々なカリキュラムが予定されており、卒業後の地域活動に役立つ実践力を養い、地域貢献へとつなげます。



▲「伝承遊び」玩具作り

健康福祉学科64名

健康福祉学科では、介護実習の講義など、高齢者の健康・体づくり、車いすや福祉機器の知識などをより実践的に学びます。また、高齢者特有の病気や対策についての老年学も合わせて学びます。

さらに、福祉分野の有識者や現場で活躍している講師を招き、高齢者に有益な福祉サービスや高齢者に適しているレクリエーションについての知識や技術を身につけ、卒業後は、学んだ知識を地域のボランティア活動等に活かすことができます。



▲講義：高齢者の体



▲講義：レクリエーション

生活環境学科62名

生活環境学科では、長寿食の調理や消費者トラブルの解決法、住環境についての講義など、高齢者が生活していくうえで必要な事柄を学びます。

リサイクルプラザの施設見学や、漫湖水鳥湿地センターでの校外学習、フードバンクについての講義などを通して、環境問題や身近なことから始められる活動を学び、卒業後の地域活動に活かします。



▲「長寿食の調理」調理実習

沖縄かりゆし 長寿大学校 同窓会 定期総会

去る4月17日、沖縄県総合福祉センターにて「第23回かりゆし長寿大学校同窓会定期総会」が開催され、同窓生約220名が出席しました。

5月15日には、27期生同窓会新役員が湧川学長を表敬訪問し、就任の挨拶を改めて行いました。



▲同窓会新役員と湧川学長

総会式典では、今年2月に卒業を迎えた、27期生187名の新人会員認証式も行われ、新しく会員に加わりました。また、各期より収集した使用済み切手や書き損じ葉書、テレフォンカード等約2万点もの贈呈式も行なわれました。
かりゆし長寿大学校湧川昌秀学長は、赤い羽根共同募金活動や、長寿大学校の運動会での支援活動の協力に対し、感謝を述べました。
新同窓会会長川井義喜氏は、「地域貢献を一番の目標に、グラウンドゴルフ大会等諸行事も楽しみながら、充実した時間を過ごしましょう。」と抱負を語りました。

平成30年度 沖縄県福祉人材研修センター 研修計画一覧

平成30年度は、下記の20コース（計38回）を予定しております。研修の詳細は、県社協ホームページの『福祉人材研修センター』の『研修会・イベント等のご案内』に随時掲載しますので御確認下さい。

沖縄県社会福祉協議会 URL <http://www.okishakyo.or.jp/>

お問合せ先：沖縄県福祉人材研修センター 研修担当 TEL：098-882-5703

番号	区分	研修名	研修対象者	
1	新任・初任研修	福祉事務所等 生活保護担当職員研修（新任）	福祉事務所等で生活保護担当1年未満の者及び福祉事務所長が受講を必要と認めた者	
2		社会福祉施設初任職員研修	社会福祉施設において直接処遇を担当する職員で経験年数3年未満の者（すでに当該研修を受講した者を除く）	
3		保育所等初任保育士研修 （南部、北・中部、宮古、八重山地区）	公・私立保育所及びへき地保育所、地域型保育事業に勤務する保育士で経験年数3年未満の者（すでに当該研修を受講した者を除く）	
4	現任研修	福祉事務所等 生活保護担当職員研修（中堅）	福祉事務所等で生活保護を担当する職員で経験年数1年以上の者	
5		児童相談所等相談機関職員研修	児童相談所の児童福祉司、児童心理司、児童指導員、心理判定員、福祉保健所・福祉事務所の家庭児童福祉主事及び家庭児童支援員・家庭相談員、母子自立支援員、女性相談所婦人相談員	
6		福祉施設・事業所の人材育成推進セミナー	社会福祉施設の経営者、施設長、管理職等	
7		チームリーダーキャリアアップ研修会 ～キャリアパス対応生涯研修課程～	社会福祉施設の主任、係長等の役職にある者	
8		児童養護施設等基幹的職員研修	児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、情緒障害児短期治療施設、母子生活支援視閲において勤務する経験年数が10年以上の者	
9		児童館職員研修	児童館に勤務する職員（館長・児童厚生員等）、及び市町村の児童館担当職員	
10		社会福祉施設給食担当職員研修	社会福祉施設において給食を担当する調理員、栄養士	
11		保育所	①児童福祉施設等給食担当職員研修 （公立保育所、認可保育施設）	公立保育園、認可保育施設において給食を担当する調理員、栄養士
			② “ “ （認可外保育施設等）	認可外保育施設等において給食を担当する調理員、栄養士
12		認可外保育施設職員研修 （南部、北・中部、宮古、八重山地区）	県内認可外保育施設等において保育に従事する職員	
13	専門研修	子育て相談援助技術研修	地域子育て支援センターに勤務する職員	
14		生活保護就労支援員研修	福祉事務所等において生活保護の就労支援を担当する職員	
15		“ “ 査察指導員研修	“ “ 査察指導を担当する職員	
16	その他研修	民生委員児童委員研修 （北部、中部、南部、八重山、宮古地区）	就任第1期、第2期の民生委員児童委員	
17		①中堅民生委員児童委員研修 （機能別：本島、宮古、八重山地区）	就任第2期以上の民生委員児童委員	
		②中堅民生委員児童委員研修 （課題別：本島、宮古、八重山地区）	“ “	
18		民生委員児童委員協議会会長研修 （年2回）	単位民生委員児童委員協議会の会長等	
19		主任児童委員研修（年2回）	主任児童委員	
20	その他	コミュニティソーシャルワーク研修	社会福祉協議会の職員及び市町村職員等でコミュニティソーシャルワークに従事する者	

沖縄県介護実習・普及センターから介護講座のご案内と展示品の紹介

これから開催される介護講座のご案内

介護従事者向け

申込開始：7/2(月)9時から
介護の基礎技術を確認しながら、新しい介護技術を学べるスキルアップ講座を紹介いたします。

※すべて受講できる方が対象
※日程ごとに交代の参加も可
(1事業所につき1名まで)

- 8/1(水) 午前
①高齢者疑似体験「うらしま太郎」
- 8/1(水) 午後
②立ち上がりの自立と介助
- 8/8(水) 午前
③起居の自立と介助
- 8/8(水) 午後
④食事編
- 8/15(水) 午前
⑤排泄編
- 8/15(水) 午後
⑥腰痛予防と福祉用具の活用法
- 8/22(水) 午前
⑦車いすの選定とフイッティング編

時間：午前9時半～12時半
午後13時半～16時半
会場：沖縄県総合福祉センター
定員：16名

一般県民向け

☆お試し！ミニ講座③
申込開始：7/30(月)9時から
展示場で福祉用具を「見て」「触れて」「体験」しながら介護の知識と技術を学んでみませんか？

8/21(火)
らくらく介護ベッドと福祉用具

時間：13時半～15時半

会場：センター内展示場

定員：10名

注意事項

- 事前のお申込みが必要です
- 資格取得の講座ではありません
- 動きやすい服装と運動靴(体育館シューズ等)をご準備ください。



▲前年度のお試し！ミニ講座の様子



▲前年度のスキルアップ講座の様子

福祉用具展示場には約200点の福祉用具が展示されています
今年度から展示されている福祉用具をご紹介します

コミュニケーション

聴こえにくい環境を改善する新しい対話支援システム
★クリアな音
音声の明瞭度に影響している周波数帯域を独自のスピーカーユニットと構造を採用することで聞き取りやすいクリアな音にしています。

★強い指向性
一般的にスピーカーの音は音源を中心に拡散しながら伝わります。コミュニケーションは音の指向性を高めることで音の拡散による壁面反射を抑制、聴こえやすさを向上させています。

卓上に置くマイクに向かって話しかけるタイプ



ロボットアシストウォーカー

R.T.2(アールティーツー)

- 電動アシストで坂道でも安心・快適な歩行
- 身体機能や使用環境にあわせて調整
- 声でもアシストおしゃべり機能
- 速度を検知すると自動ブレーキ

設定の組み合わせは64通り



福祉用具の
販売・レンタルは
行っておりません
取扱事業所を
ご紹介しています

ユニバーサルカフ



食事や文字書きが自然な動作でラクになります。右手用と左手用があります。

レボUコップ



鼻に当たらないU字カット
赤ちゃん・高齢者・嚥下障害の訓練用コップとして最適。

はくのらーく



からだの障がいやケガ妊娠中などで足先に手が届かない人が自分で靴下を履くための補助用具です。

パートナーII



簡単にシャツなどのボタン掛けができる自助具です。折り畳み式のためポケットに入れて外出に便利。

お問い合わせは 沖縄県介護実習・普及センター TEL:098-882-1484 FAX:098-882-1486



寄付・寄贈者芳名
(4月1日～6月1日)

御寄付いただき、誠にありがとうございました。

- 比嘉 佑一郎 様
- 大瀨 博徳 様
- 株式会社 南都 様
- 饒平名 知春 様
- (故 饒平名 ウト 様 香典返し)

※本会の寄付については
税制上の優遇措置が受け
られます。詳しくは県社
協総務企画部まで



▶寄付・寄贈者
【写真左から2番目】
株式会社 南都 常務取締役 松茂良 英次 様
【写真左から1番目】
株式会社 南都 総務部長 宮平 実 様
受贈者
【写真右から2番目】
湧川 昌秀 (本会) 会長
【写真右から1番目】
高良 正樹 (本会) 事務局長

訂正

本誌 vol.179 (平成30年
5月1日発行) 16ページに
記載の寄付・寄贈芳名につ
いて誤りがありました。

- 【誤】
●西原 徳一 様
- 【正】
●西原 篤一 様

大変失礼いたしました。
お詫びして訂正いたします。

施設団体
福祉部

平成30年4月に役員改選
のあった沖縄県心身障害児
者施設協議会及び、沖縄県
保育協議会の正副会長を御
紹介します。

沖縄県心身障害児者
施設協議会

会長 伊佐 智樹
グリーンホーム 施設長

副会長 知念 隆生
高志保育園 施設長

沖縄県保育協議会

会長 仲地 賢
ドリーム保育園 園長

副会長 安座間 葉子
ひまわりっ童ほいくえん 園長

副会長 米須 末子
北中城村喜舎場保育所 所長

夏もいよいよ本番です！
皆さんは、夏のイベント何か計画していますか？
暑さに負けず、涼しいイベントを計画して乗り切りましょ
う！

編集後記

「二度しかない人生、やりた
いことには何でも挑戦し続け
ていきたい」と笑顔で話され
る宮城さんからは、自分の限
界を決めずに、何事にも楽し
みながら挑戦し続けていく姿
勢を学びました。

宜野湾市在住の宮城範さん
(75歳) は日々、書道や、絵画
教室、大正琴など、自分の興
味関心のあることに挑戦し続
けている方です。

今回の作品は、小さい頃か
らなじみのあるアダンをテー
マに、葉が風になびいている
様子や海岸沿いに咲くハマユ
ウの花に蝶々が蜜を求めて
やってくる夏の穏やかな一コ
マを自らのインスピレーショ
ンで捉えた作品となっています。
宮城さんは「絵画は、伝
統や形式に捕らわれずに自由
に自分を表現できるもの」と
話されていました。

表紙の作品



作品名:「海辺のアダン」
作成者 宮城 範 さん